

佐渡金銀山

世界遺産へ一歩前進

暫定リストに正式記載

世界文化遺産への登録を目指す佐渡金銀山遺跡が2日までに、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の暫定リストに正式に記載された。世界遺産候補として国際的に紹介されることとなり、県教育庁世界遺産登録推進室では「国際舞台で登録に向けた取り組みをする上で後押しとなる」としている。

国は10月に関係省庁連絡協議を開き、佐渡金銀山遺跡を「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」の名称で暫定リストに記載する方針を決め、ユネスコ

コ側に追加記載の資料を提出していた。これを受け、11月22日付でユネスコのリストに記載された。

て、県教育庁世界遺産登録推進室は「海外へもユネスコのリストに載っている佐渡」として働き掛

活動も加速させるとし、2011年度は推薦書作成に向けた学術委開催の頻度を増やす、シンポジウムなどで地元の熱意を高めるといった取り組み

を、一つの目安」として

を検討している。

現在、暫定リストに記載されている国内物件は佐渡を含め13件(自然遺産候補を除く)。本登録に向けた「ユネスコへの推薦」が次のステップで、国は文化財指定や推薦書作成などの準備が整った順にユネスコへ推薦する。

2007年に世界遺産登録された石見銀山遺跡の場合、暫定リスト記載の5年後に国が推薦書を提出しており、県教育庁世界遺産登録推進室でも「佐渡の登録を考える上